追　悼　文

阿部知博先生を偲んで

副院長
久保　直彦

平成30年５月１日阿部知博先生は，当院でご家族に看取られて静かに旅立たれました。主治医の畠山先生から先生らしい立派な最期であったと伺いました。５月３日の葬儀に病院の代表また同級生として出席させていただきました。祭壇の四角い枠の中に，自ら選んだという優しい微笑のお顔がありました。

阿部先生は盛岡市の出身で，岩手大学付属小，中学校，盛岡第一高校と進み，昭和50年４月岩手医科大学医学部へ入学しました。私も同期入学し，以来43年のお付き合いでした。当時の入学者数は100名で，名簿順に作られたスモールグループが異なり，クラブ活動も先生はオーケストラ部，私はボート部と在学中は深い交流の機会はありませんでしたが，今と変わらず誠実で温厚な性格で，武勇伝など聞いたことのない穏やかな学生の印象でした。先生は平成56年４月より岩手医科大学大学院に進学，放射線医学講座に入局し，放射線科医の道を歩まれました。私は脳神経外科の医局に入局し，お互い大学院，研修中は忙しく，たまに大学病院内や同級会などで顔を合わせる程度でした。

先生は平成６年７月当院に放射線科副部長として入社し，平成９年６月に放射線科第二部長，平成25年４月に放射線科第一部長となり，主にMRIを中心とした画像診断業務を担当されていました。私は平成９年１月当院に脳神経外科部長として勤務することになり，以来20余年同じ職場で働くことになりました。日常の診療では，多くの患者，時には急患の画像撮影，診断依頼にも快く応じていただきました。放射線科医（画像診断医）はディスクワーク主体ですが，「頭のてっぺんから爪先まで全身を診る」知識，診断技術を要求されるハードな仕事と思います。多量の画像診断のみならず放射線部の運営，病院の種々の仕事も淡々と実直に勤めていました。その診療スタイルは，いつもきちっとネクタイを締め，その上に白衣を着てスマートに仕事していました。先生と私は同級生だよと職員に話しても誰も信じないほど若々しく，そのカモフラージュのためか，ある時期にはあご髭を伸ばしていたこともありました。

放射線科医ですのでメカニックにも精通しており，電子カルテのない頃に放射線部内で独自にオーダーシステムを創設しました。先生はMac（Macintosh）のheavy userで知識も豊富でしたので，そのシステムもMacで作っていました。私もMac userであったためIT関連の話が合い，いろいろ多くのことを教えていただきました。現在はWindowsが増えてしまいましたが，10年以上前まで医局にはWindowsが１台しかなく，他は全てMacという異常な環境で，それは更新時にPowerPC,初代iMacからPower Mac，最近のiMacとその当時の新型機種を順次購入していたためで，これは医局のPC係であった先生と私の陰謀（趣味）によるものでした。また，先生は数年前にMac Proという市販のものでは最高性能のPCを購入し，そのことを嬉しそうに話していたことを思い出します。病院の初代電子カルテ，現在の電子カルテ導入など，情報システム委員会の委員長としても当院のIT化に尽力していただきました。

先生とは音楽と旅行という共通の趣味があり，それを語り合う場は日当直の時の医局や昼の職員食堂でした。先生はクラシック音楽，特にブルックナー

（オーストリアの作曲家）マニアで，レコード，CDのコレクションはもちろん，夏休みにはそのゆかりの土地を訪ねて歩くのが趣味でした。ブルックナーゆかりの街，教会，聴いてきたコンサート，ある年には旅先で転倒し病院に運ばれたときの話や行き帰りの飛行機，電車のことなど話は尽きませんでした。私も刺激され，数年前にブルックナーゆかりのリンツ市やお墓のあるザンクトフローリアン教会を訪れたこともありました。先生の行き先のほとんどがウィーンなので，2016年からオーストリア航空が日本から撤退し，ウィーン直通便が飛ばなくなったことをとても悲しんでいました（今年の５月から復活しましたよ）。病気になってからも，奥様と娘さんのお誘いで初めてフランスへ行き，オーケストラの演奏会など聴いてきたと伺ったのが旅の最後の話題でした。ブルックナーといえば，私が交響曲第一番（小澤征爾指揮，新日フィル）を聴きに行く機会があり，その曲は聴いたことがないので先生にCDを貸してくれるように頼みましたところ，しばらくして０番～２番というめったに演奏されない３曲のCDを「第１番は生で聴いたことがないのですよ」と悔しそうに話して渡してくれたことも思い出します。

先生は音楽の素養があり，大学のオーケストラ部ではビオラを弾いて，卒業後も大学のオーケストラの公演に参加していました。私は高校時代吹奏楽部でチューバを吹いていたので，大学時代にワグナーとチャイコフスキーの演目の時に誘われて，オーケストラ部の公演に参加する機会がありました。ともにオーケストラの一員として音楽の創造に関われたのは楽しい思い出です。奥様はピアノが達者で，そのご縁で結婚されたと思われますが，10年以上前の当院の新年会で，先生のビオラ，奥様のピアノのデュオで演奏されたことがありました。奥様はそっと参加し演奏が終わるとすぐに帰られたのは残念でしたが，先生は２次会にビオラを持ってきて，カラオケに合わせて葉加瀬太郎のように即興で楽しく弾いていたことを思い出します。ビール，ワインが好きでしたが深酒することもなく，楽しくいい酒飲みでした。

葬儀の時に頂いたご家族の文集に，奥様は「いつも紳士的で，どこへ行ってもスマートに対応する素敵な人でした。」と書かれていました。

本当に紳士で穏やかで良い人でした。

ご冥福を祈ります。　　合　掌